

平成28年度 亀田郷土地改良区役員研修

■視察研修先

8月2日：①九頭竜川下流地区【福井県坂井市】

②農事組合法人イーノなかのはま100

【福井県あわら市】

8月3日：③農林水産省 北陸農政局【石川県金沢市】

去る8月2日～3日に、本年度の役員研修が行われました。

1日目は、福井県坂井市・あわら市を視察しました。この地域は、福井県最大の河川である九頭竜川流域に広がる扇状地で、暴れ川で知られる九頭竜川の治水事業と、有数の穀倉地帯としての農業開発が、6世紀ころから繰り返されてきた歴史を持っています。

①九頭竜川下流地区 国営かんがい排水事業

視察の1件目は、九頭竜川下流地区の国営かんがい排水事業です。当地区の用水は、九頭竜川中流の鳴鹿大堰より開水路にて配水されていましたが、昭和20～30年代に造成された施設は老朽化により機能の低下と維持管理費の増嵩をきたしており、用水不足に加え、塩水遡上による塩害や都市化による用水の汚濁への対応が求められていました。

このため、地区内すべての農地への安定した用水供給を図るため、用水の全面的なパイプライン化の計画が立てられました。幹線用水路を国営事業で実施し、支線・末端をほ場整備事業を含む県営事業で整備する

もので、受益面積11,642ha、総事業費は国営事業が1,133億円、県営事業が約400億円。国営の幹線パイプラインは54.8kmに及び、その末端に設置された巨大な調圧水槽が、農村地域に新たな景観を生み出しています。

見学した春江北部調圧水槽（表紙写真）は高さ20mの円柱状の施設で、海拔35mの頭首工からパイプラインで送られてきた用水は、高低差を利用して水槽内で一定の水位に保たれ、水压をコントロールして県営のパイプラインに供給されます。

こうした用水システムの構築により、用水の合理化と安定供給を実現し、水管理・施設管理の省力化、揚水機場の運転など維持管理費の軽減がはかられただけでなく、水質の改善、水温低下による高温障害の改善による品質向上、用水への転落防止など安全対策、パイプライン上部の利活用など、多くの効果を発揮しています。

②農事組合法人 イーノなかのはま100／次世代型水管理システム

同日、もう1件の視察として、国営事業（パイプライン化）、県営事業（ほ場整備）の成果を活用して営農を行っている営農組織、あわら市中浜の「農事組合法人 イーノなかのはま100」を訪ね意見交換を行いました。

平成18年に中浜集落の64名の農家が全員参加して法人を設立、102.2haを受託する大型法人です。組合員は全員兼業農家ですが、作業出役を8班で構成し、定年退職者や自営業の「平日班」と、いわゆる現役サラリーマンの「休日班」に分け、さらに、3か月先までの農作業スケジュールを決め、勤務先の休暇取得を計画的に行えるよう工夫しています。

稲の品種や移植／直播、さらに、大麦・大豆・そばなどの転作作物も組み合わせ、作期の分散を図り、ほ場・機械設備・労働力稼働の標準化を図っています。

また、農水省の実証試験による、ITを活用した次世代型水管理システムを活用しています。タイマーや遠隔操作対応の自動給水栓をほ



九頭竜川下流地区 用水系統図